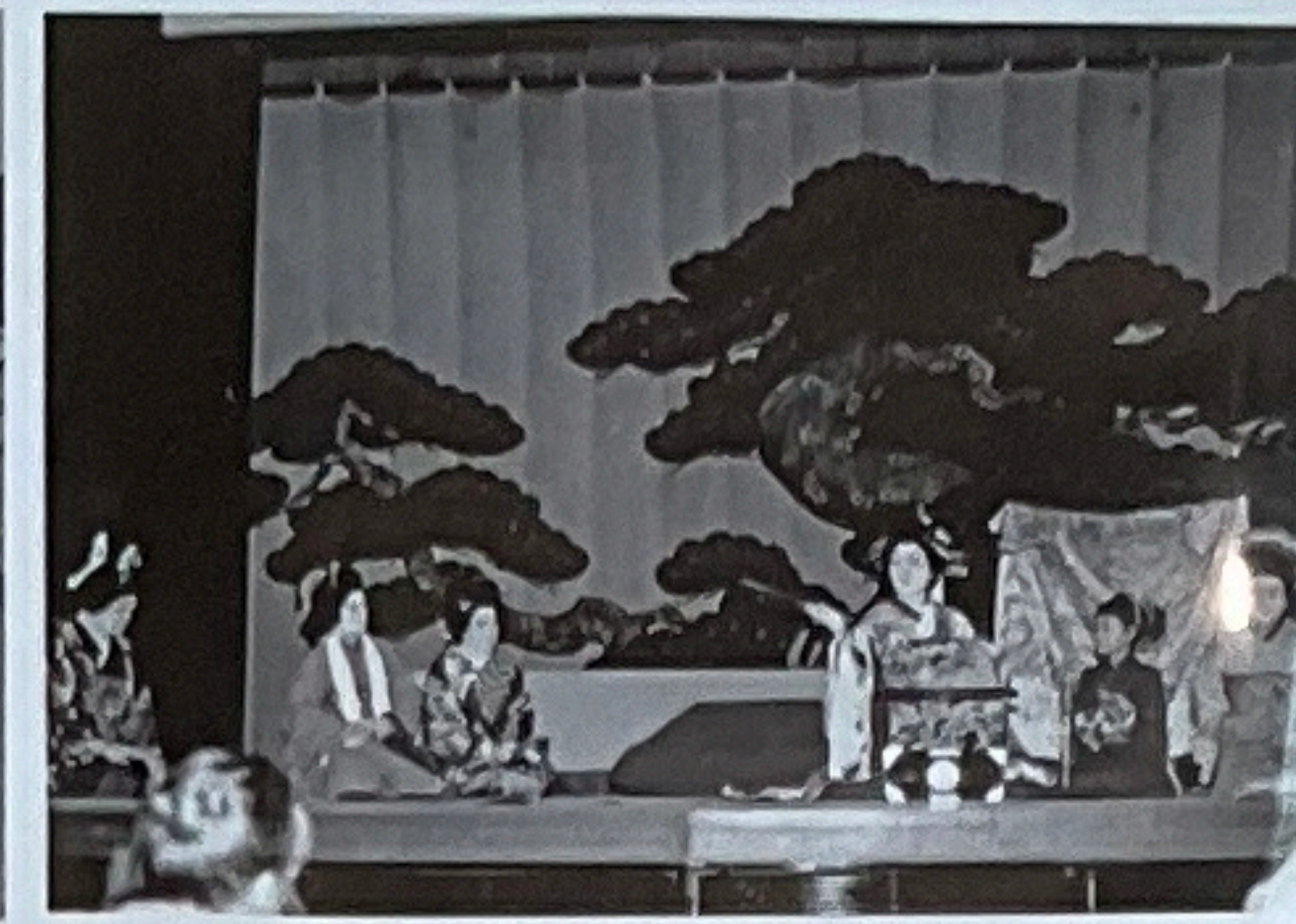


## よみがえった“高田歌舞伎関連資料”

高田歌舞伎は、天明年間（18世紀後半）にすでに行われていたとされる地芝居をルーツにしています。隆盛を極めた明治時代中期には、「荒川歌舞伎」、「今泉歌舞伎」、「竹駒歌舞伎」、「高田歌舞伎」の4座が陸前高田市内で活躍し、宮古、釜石、久慈方面など周辺地域にまで興行しました。戦後はさまざまな娯楽が生まれたことで廃れていきましたが、高田歌舞伎は女歌舞伎として装いを変え、いとなまれ続けました。当館に収蔵されていた高田歌舞伎関連資料は、2代目座長故猪股みや氏が使用・保管していたものです。



高田女歌舞伎一座



市民文化祭での公演



NHK アートによるかつらの修理



昭和女子大学によるかんざしの修理

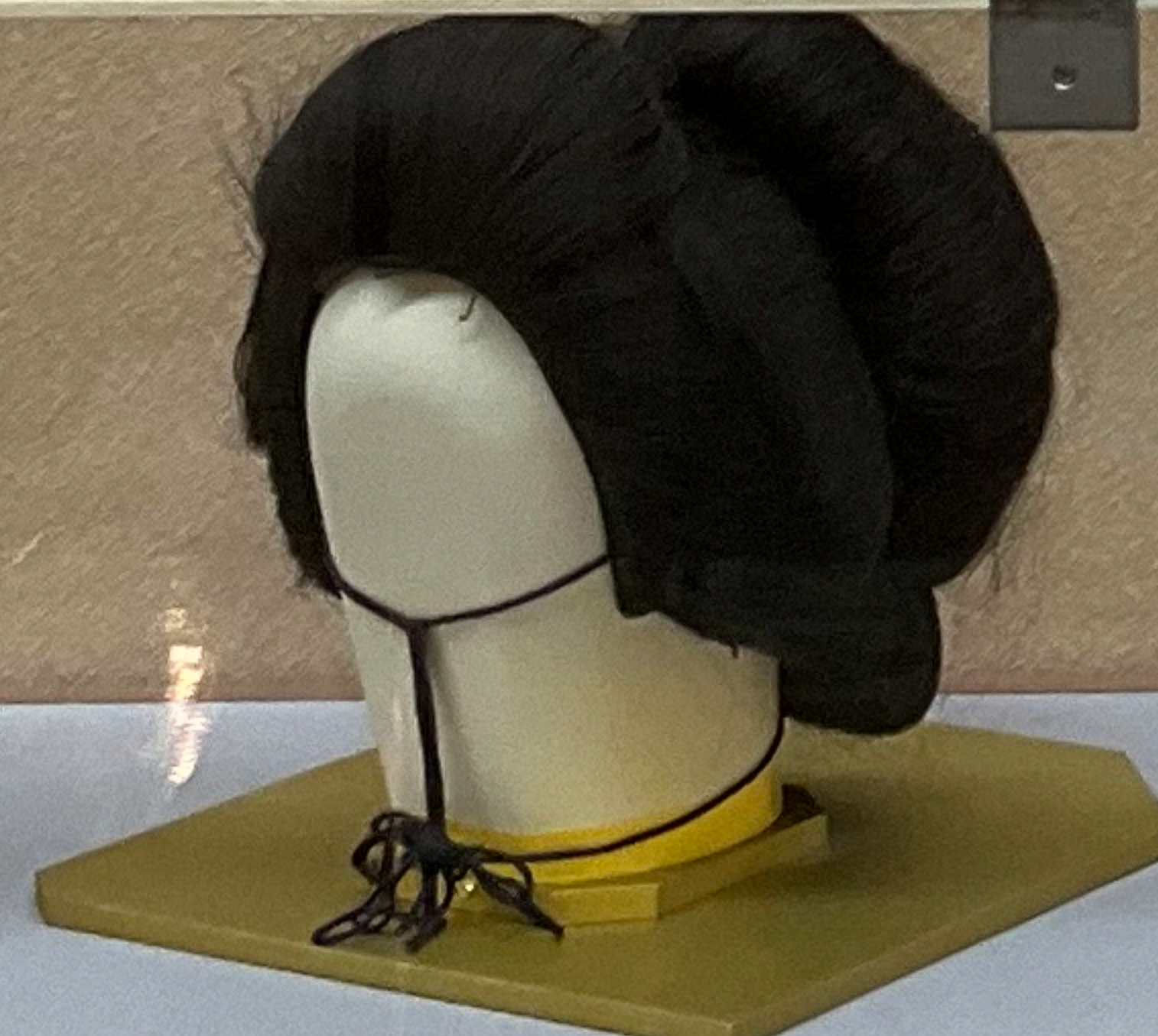


女子美術大学による衣装のクリーニング

歌舞伎衣装（麻の葦校曹校様）  
陸前高田市立博物館蔵



かつら（黒）  
高田歌舞伎座蔵



かつら（黒）  
高田歌舞伎座蔵



かんざし  
高田歌舞伎座蔵



かんざし  
高田歌舞伎座蔵



かんざし  
高田歌舞伎座蔵